子ども家庭支援の心理学　　千﨑 美恵

※実務経験のある教員による授業科目：単位数２

授業概要

保育現場で必要となる子どもの発達と子どもを取り巻く環境について理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点と向き合う姿勢を修得することを目的とする。保育実践において学修内容が活用できるよう、事例によってイメージを明確化した上で、グループワークにて他者の意見を取り入れながら自分の考えを持てるよう進める。病院や保健相談所での発達相談・育児支援の経験を活かし、子どもと家庭支援に関わる現代的課題の理解を深められるように講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：生涯発達心理学と子ども家庭支援
第 2 回	胎児期・乳児期・幼児期の発達と支援
第 3 回	学童期・青年期の発達と支援
第 4 回	成人期・老年期の発達と支援
第 5 回	家族・家庭の意義と機能・支援
第 6 回	親子関係・家族関係の理解と支援
第 7 回	子育て経験と親としての育ちの理解と支援
第 8 回	子育ての社会的状況と支援（ライフコースと仕事・子育て）
第 9 回	多様な家庭への理解と支援
第 10 回	特別な配慮を要する家庭への理解と支援
第 11 回	子どもの障害・発達障害への理解と支援
第 12 回	子どもの生活・生育環境とその影響・支援
第 13 回	精神保健・子どもの心の健康とその課題・支援
第 14 回	子どもと家庭支援に関わる現代的課題①：グループディスカッション・発表
第 15 回	子どもと家庭支援に関わる現代的課題②：グループディスカッション・発表
第 16 回	定期試験

到達目標

1．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解できる。
2．家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得することができる。
3．子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題・支援について理解できる
4．子どもの精神保健とその課題・支援について理解できる。

履修上の注意

保育士資格取得のための必修科目である。テキストにあるキーワードや演習問題を中心に講義を行うので、テキストは必ず持参すること。適宜、グループワークを行うので積極的に参加すること。毎回の授業で課題提出を実施する。

予習・復習

予習：授業前にテキストを読んで、授業時に理解が深まるよう準備する。
復習：テキスト・配布資料を振り返り、理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決し、学修の定着を図る。

評価方法

定期試験（60%）、授業での取り組み（40%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業内の課題の提出状況・評価、および授業態度なども考慮する。

テキスト

・教科書名：「新・子ども家庭支援の心理学：発達・家族の理解と子育て支援」
・著 者 名：永房典之（編著）
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年：2023 年　（ISBN）：978-4-909378-48-4